



DataSpider BPM 2.5

アップグレードガイド

(第一版)



目次

1.	はじめに.....	3
1.1.	本ドキュメントについて.....	3
1.2.	注意事項.....	4
1.2.1.	お客さまへのお願い.....	4
1.2.2.	商標について.....	4
1.3.	マークについて.....	5
2.	DataSpider BPM のバージョンアップ.....	6
2.1.	バージョンアップの対象バージョン.....	6
2.2.	バージョンアップする際の注意事項.....	6
2.3.	バージョンアップ手順.....	7
2.3.1.	旧バージョンの DataSpider BPM を停止する.....	8
2.3.2.	旧バージョンの DataSpider BPM のファイルデータをバックアップする.....	8
2.3.3.	旧バージョンの DataSpider BPM で使用した PostgreSQL 9.2 データベースをバックアップする 8	8
2.3.4.	旧バージョンの DataSpider BPM の各種設定ファイルをバックアップする.....	8
2.3.5.	旧バージョンの DataSpider BPM をアンインストールする.....	9
2.3.6.	新バージョンの DataSpider BPM で使用する PostgreSQL 9.5 データベースをインストールする 9	9
2.3.7.	新バージョンの DataSpider BPM で使用する PostgreSQL 9.5 データベースにデータをリストアする.....	10
2.3.8.	新バージョンの DataSpider BPM をインストールする.....	10
2.3.9.	新バージョンの DataSpider BPM にファイルデータをリストアする.....	10
2.3.10.	新バージョンの DataSpider BPM の各種設定を行う.....	10
2.3.11.	新バージョンの DataSpider BPM を起動する.....	11
3.	今回のバージョンアップで注意すべき仕様変更点.....	12
3.1.	DataSpider BPM 2.4 から 2.5 へのバージョンアップ.....	12
4.	過去のバージョンアップで注意すべき仕様変更点.....	20
4.1.	DataSpider BPM 2.0 から 2.1 へのバージョンアップ.....	20
4.2.	DataSpider BPM 2.1 から 2.2 へのバージョンアップ.....	22
4.3.	DataSpider BPM 2.2 から 2.3 へのバージョンアップ.....	24

4.4. DataSpider BPM 2.3 から 2.4 へのバージョンアップ26

1. はじめに

1.1. 本ドキュメントについて

本ドキュメントでは、DataSpider BPM (製品版/評価版 共通)のバージョンアップ手順を説明しています。

本ドキュメントの内容は、バージョン 2.5 に基づきます。

1.2. 注意事項

1.2.1. お客さまへのお願い




- 本ソフトウェアの著作権は株式会社アプレッソまたはそのライセンサーが所有しています。
- 本ソフトウェアおよび本ドキュメントを無断で複製、転載することを禁止します。
- 本ドキュメントは万全を期して作成されていますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- 本ソフトウェアは使用者の責任でご使用ください。ご使用の結果、万一トラブルおよび訴訟等が発生しましても、あらゆる直接、または間接の損害および損失につきまして、弊社は一切責任を負わないものとしします。あらかじめご了承ください。
- 本ソフトウェアの仕様や本ドキュメントに記載されている内容は、改善のため予告なしに変更されることがあります。
- 本ソフトウェアの使用には、ソフトウェアライセンス契約が必要で、株式会社アプレッソまたはそのライセンサーの重要な業務機密と独自の情報が含まれており、日本国政府の著作権法で保護されています。株式会社アプレッソまたはそのライセンサーのソフトウェアと本ドキュメントの無断使用は、損害賠償、刑事訴訟の対象となります。

1.2.2. 商標について

- APPRESSO、APPRESSO ロゴ、アプレッソ、DataSpider、DataSpider マーク、データスパイダー、Servista、Servista ロゴ、サービスタは、株式会社アプレッソの商標または登録商標です。
- APPRESSO、APPRESSO ロゴ、アプレッソ、DataSpider、DataSpider マーク、データスパイダー、Servista、Servista ロゴ、サービスタ以外の会社名、製品名、サービス名等は、各社の登録商標または商標です。
- 個々のページに表示・記載されたこれら商標等の複製・転用を禁止致します。

1.3. マークについて

本ドキュメント内で使用しているマークについての説明は以下の通りです。

マーク	説明
	操作や設定に関するヒントであることを表します。
	操作や設定に関する注意事項や制限事項であることを表します。
	詳細な説明が別の項目に記載されていることを表します。

また、説明は次の規則に沿って行われています。

- 画面に表示されるメニュー名、タブ名、プロパティ項目名および値、ボタン名は[]で囲んで表します。また、それ以外の機能名や画面のタイトル、名称のないものは「」で囲んで前者と区別しています。
- \$DSBPM_HOME は、DataSpider BPM をインストールしたディレクトリを表します。デフォルトでは、「C:¥DSBPM」となります。
- \$JRE_HOME は、DataSpider BPM のインストール時に選択した JavaVM(JRE)のインストールディレクトリを表します。
 - JRE をインストールした場合： 例) C:¥Program Files¥Java¥jre1.8.0_141
 - JDK をインストールした場合： 例) C:¥Program Files¥Java¥jdk1.8.0_141¥jre
- \$PSQL_HOME は、PostgreSQL データベースのインストールディレクトリを表します。
- <>で囲まれた名称は、可変であることを表します。
例: http://<ホスト名または IP アドレス>:18080/userweb/Login_show

2. DataSpider BPM のバージョンアップ

2.1. バージョンアップの対象バージョン

DataSpider BPM 2.5 へバージョンアップを行う場合、対象となるバージョンは 2.4 となります。必ず 2.4 までバージョンアップした上で、2.5 へのバージョンアップを行ってください。



これ以降、DataSpider BPM 2.4 を「旧バージョン」、DataSpider BPM 2.5 を「新バージョン」と表します。

2.2. バージョンアップする際の注意事項

- 稼働環境を確認し、対応する環境をご使用ください。
- DataSpider BPM のバージョンアップは、使用中のバージョンからその次バージョンへのバージョンアップのみをサポートしています。

例) DataSpider BPM 2.2 から 2.5 へのバージョンアップを行う場合

1. DataSpider BPM 2.3 へのバージョンアップを実施
2. DataSpider BPM 2.4 へのバージョンアップを実施
3. DataSpider BPM 2.5 へのバージョンアップを実施

- バージョンアップのあとには動作検証を行ってください。

JavaScript をご使用の環境につきましては、バージョンアップにともない、JavaScript に関するライブラリの変更や UI およびその動作が変更されるため、バージョンアップ前とは異なる動作になる可能性があります。十分な動作検証をお勧めします。

- 各バージョンで提供しているパッチモジュールを適宜適用してください。
- サポートサイトでは、既知の問題に関する最新情報が記載されております。

バージョンアップの際には必ずご確認ください。

2.3.バージョンアップ手順

バージョンアップ作業は、旧バージョンの関連データをバックアップ後に、新バージョンの DataSpider BPM を新規にセットアップし、旧バージョンの DataSpider BPM からデータを移行します。




今回のバージョンアップでは、使用する PostgreSQL データベースのバージョンが異なります。PostgreSQL データベースに対しては、PostgreSQL 9.5 を新規にインストールし、PostgreSQL 9.2 でバックアップしたデータをリストアして使用する手順での説明となります。


バージョンアップの手順は以下の通りです。

1. 旧バージョンの DataSpider BPM を停止する
2. 旧バージョンの DataSpider BPM のファイルデータをバックアップする
3. 旧バージョンの DataSpider BPM で使用した PostgreSQL 9.2 データベースをバックアップする
4. 旧バージョンの DataSpider BPM の各種設定ファイルをバックアップする
5. 旧バージョンの DataSpider BPM をアンインストールする
6. 新バージョンの DataSpider BPM で使用する PostgreSQL 9.5 データベースをインストールする
7. 新バージョンの DataSpider BPM で使用する PostgreSQL 9.5 データベースにデータをリストアする
8. 新バージョンの DataSpider BPM をインストールする
9. 新バージョンの DataSpider BPM にファイルデータをリストアする
10. 新バージョンの DataSpider BPM の各種設定を行う
11. 新バージョンの DataSpider BPM を起動する

2.3.1. 旧バージョンの DataSpider BPM を停止する

- 旧バージョンの DataSpider BPM が起動中の場合、停止処理を行ってください。

 操作方法に関する詳細は、旧バージョンの DataSpider BPM インストールガイドの「4.2. 停止」を参照してください。

 停止前には、必ず現在タスク処理中のユーザ、および処理中のイベントがないことを確認してから、停止してください。

2.3.2. 旧バージョンの DataSpider BPM のファイルデータをバックアップする

- 旧バージョンの DataSpider BPM のファイルデータが格納されている file ディレクトリを開き、バックアップ先にコピーします。

➤ \$DSBPM_HOME¥file ディレクトリ直下

 file ディレクトリごとバックアップ先にコピーします。

2.3.3. 旧バージョンの DataSpider BPM で使用した PostgreSQL 9.2 データベースをバックアップする

 バージョンアップ時に不具合が発生し、旧バージョンへ戻す場合などに必要となります。

- 旧バージョンの DataSpider BPM で使用している PostgreSQL 9.2 データベースのバックアップ機能を使用し、データベースをバックアップします。

 操作方法に関する詳細は、旧バージョンの DataSpider BPM バックアップ・リストアガイドの「3.2. PostgreSQL データベースのバックアップ手順」を参照してください。

2.3.4. 旧バージョンの DataSpider BPM の各種設定ファイルをバックアップする

 バージョンアップ時に不具合が発生し、旧バージョンへ戻す場合などに必要となります。

- 旧バージョンの DataSpider BPM の各種設定ファイルをバックアップ先にコピーします。

➤ DataSpider BPM 設定ファイルのバックアップ

◇ \$DSBPM_HOME¥qbpms.config

➤ SSL 通信設定ファイルのバックアップ



DataSpider BPM に SSL 通信設定を行っている場合が対象です。

- ◇ \$DSBPM_HOME¥apache-tomcat¥conf¥.keystore
- ◇ \$DSBPM_HOME¥conf¥server.xml
- ◇ \$JRE_HOME¥lib¥security¥cacerts

➤ シングルサインオン設定ファイルのバックアップ



DataSpider BPM にシングルサインオンの設定を行っている場合が対象です。

- ◇ \$DSBPM_HOME¥qbpm.config の「qbpm.saml.keystore.file」項目に設定されている値を確認し、その場所に格納しているファイル

➤ PostgreSQL データベース設定ファイルのバックアップ



PostgreSQL データベースの設定を変更している場合が対象です。

- ◇ 個別に設定を変更している設定ファイル
 - \$PSQL_HOME¥data¥postgresql.conf
 - \$PSQL_HOME¥data¥pg_hba.conf
- など

2.3.5. 旧バージョンの DataSpider BPM をアンインストールする

- 旧バージョンの DataSpider BPM をアンインストールします。



操作方法に関する詳細は、旧バージョンの DataSpider BPM インストールガイドの「8. DataSpider BPM のアンインストール」を参照してください。

2.3.6. 新バージョンの DataSpider BPM で使用する PostgreSQL 9.5 データベースをインストールする

- PostgreSQL 9.5 データベースをインストールします。



操作方法に関する詳細は、新バージョンの DataSpider BPM インストールガイドの「2.2. PostgreSQL 9.5 のインストール」を参照してください。


2.3.7. 新バージョンの DataSpider BPM で使用する PostgreSQL 9.5 データベースにデータをリストアする


- 新バージョンの DataSpider BPM で使用する PostgreSQL 9.5 データベースのリストア機能を使用し、データをリストアします。

 操作方法に関する詳細は、新バージョンの DataSpider BPM バックアップ・リストアガイドの「4.2. PostgreSQL データベースのリストア手順」を参照してください。

2.3.8. 新バージョンの DataSpider BPM をインストールする

- 新バージョンの DataSpider BPM をインストールします。


 操作方法に関する詳細は、新バージョンの DataSpider BPM インストールガイドの「3. DataSpider BPM のインストール」を参照してください。

 今回のバージョンアップによる PostgreSQL 9.5 データベースへの移行に伴い、インストール後に行う設定ファイル(qbpms.config)の編集作業では、データベース接続設定のポート番号の指定には特に注意してください。

2.3.9. 新バージョンの DataSpider BPM にファイルデータをリストアする


- 新バージョンの DataSpider BPM のファイルデータが格納されている file ディレクトリを開き、バックアップデータを上書きコピーします。

➤ \$DSBPM_HOME¥file ディレクトリ直下


 バックアップデータを file ディレクトリごと上書きコピーします。

2.3.10. 新バージョンの DataSpider BPM の各種設定を行う


- 新バージョンの DataSpider BPM の各種設定を行います。


 バージョンアップの場合は、設定項目の内容が変更されている可能性があります。設定ファイルはリストアせずに、新たに設定し直してください。

➤ DataSpider BPM の設定

 「[2.3.8. 新バージョンの DataSpider BPM をインストールする](#)」の作業にて、設定済みとなります。その他に個別に設定が必要な場合は、適宜設定してください。


➤ SSL 通信の設定

 DataSpider BPM に SSL 通信設定を行っている場合が対象です。

 設定方法に関する詳細は、新バージョンの DataSpider BPM インストールガイドの「11. SSL 通信設定」を参照してください。

➤ シングルサインオンの設定

 DataSpider BPM にシングルサインオンの設定を行っている場合が対象です。

 設定方法に関する詳細は、新バージョンの DataSpider BPM シングルサインオンの設定方法ガイドを参照してください。

2.3.11. 新バージョンの DataSpider BPM を起動する

- 新バージョンの DataSpider BPM を起動します。

初回起動時に PostgreSQL データベース内のデータに対し、必要なアップデート処理が実行されます。DataSpider BPM が正常に起動し、ログイン可能な状態になりましたら、バージョンアップ作業が完了となります。

 操作方法に関する詳細は、新バージョンの DataSpider BPM インストールガイドの「4.1. 起動」を参照してください。

3. 今回のバージョンアップで注意すべき仕様変更点

新バージョンにて、旧バージョンとは異なる処理結果や動作となる仕様変更を説明します。バージョンアップの際には必ずご確認ください、必要に応じて記載されている対処方法を行ってください。



バージョンアップによる仕様変更により、動作が変わる事項を記載しています。



「RN99999」などの番号は、新バージョンのリリースノートに記載されているレポート No を表します。



その他の仕様変更や新機能についての詳細は、新バージョンのリリースノートを参照してください。

3.1. DataSpider BPM 2.4 から 2.5 へのバージョンアップ

全般

● RN01574:

セキュリティ対策として、DataSpider BPM の各画面を呼び出した際の HTTP レスポンスのヘッダに、「X-Frame-Options:SAMEORIGIN」を追加しました。

- DataSpider BPM の各画面の URL をフレームタグで他のサイトのページに埋め込んでも、そのサイトが同一オリジン (URI スキーム、ホスト名、ポート番号が一致) ではない場合は、フレーム内の画面は表示されません。



「メッセージ開始イベント(フォーム)」で生成される画面は該当しません。

● RN01576:

ログファイルが日付でローテーションする際に、前日のログファイルを gz 形式で圧縮するよう対応しました。

- 対象のログファイルは以下の通りです。

- ◇ qbpms.log.<YYYY-MM-DD>
- ◇ error.log.<YYYY-MM-DD>
- ◇ oauth.log.<YYYY-MM-DD>
- ◇ quartz.log.<YYYY-MM-DD>
- ◇ access.log.<YYYY-MM-DD>
- ◇ saml.log.<YYYY-MM-DD>



過去のログファイルを参照している場合などは、解凍してから参照する必要があります。

アプリ(プロセスモデル)設定

● RN01623:

「ヒューマンタスク」のプロパティ設定ダイアログにて、[締め切り到達時の処理]の[タスクを異常終了させる(トークンは進みません)]の設定を廃止しました。

- DataSpider BPM 2.4 より前のバージョンからバージョンアップしている場合が対象となります。
- 既存の設定が残っている場合は、[何もしない]と同じ動作となります。



適宜、[タスクを異常終了させる(トークンはタイマー境界イベントに移動)]または[何もしない]に設定を変更してください。

● RN01632:

[データ項目]タブの選択型データ項目にて、「選択肢マスタ」の[選択肢 ID]または[表示ラベル]のどちらかの値が空だった場合、その選択肢は無効となり、リスト表示されないよう対応しました。



値が空の[選択肢 ID]または[表示ラベル]に、適切な値を登録してください。

● RN01633:

[データ項目]タブの選択型データ項目にて、選択肢の定義で[選択肢 ID]または[表示ラベル]のどちらかの値が空だった場合は、アプリ(プロセスモデル)がエラーとなるよう対応しました。



値が空の[選択肢 ID]または[表示ラベル]に、適切な値を登録してください。

● RN01640:

「メッセージ受信中間イベント(HTTP)」にて、日時型データ項目に対して空文字列を送信すると、値をクリアするよう対応しました。

● RN01643:


「メッセージ開始イベント(HTTP)」にて、日時型データ項目でエラーが発生した際に返す XML 内のパラメータ名を「data[X].datetime」に変更しました。

[DataSpider BPM 2.4]

- 「data[X].input」

[DataSpider BPM 2.5]

- 「data[X].datetime」

 エラー処理でパラメータ名「data[X].input」を参照している場合は、「data[X].datetime」に変更してください。

● **RN01644:**

「メッセージ開始イベント(HTTP)」にて、ファイル型データ項目にファイル以外のデータを送信した場合、エラーにならずに無視されるよう対応しました。

● **RN01645:**

「メッセージ開始イベント(HTTP)」および「メッセージ受信中間イベント(HTTP)」にて、パラメータが不正な場合のエラーの HTTP ステータスコードを 400 番台で返すよう対応しました。

 エラー処理で HTTP ステータスコードを参照している場合は、適宜変更してください。

● **RN01646:**

「メッセージ受信中間イベント(HTTP)」にて、ファイル型および選択型(チェックボックス)のデータ項目に対する処理動作を以下のように変更しました。

- 編集許可設定が[編集可]の状態、イベント実行時にパラメータを送らなかった場合、保持されている値が変わらないよう対応しました。

【DataSpider BPM 2.4】

- ◇ パラメータを送らなかった場合は、値がクリアされます。


【DataSpider BPM 2.5】

- ◇ パラメータを送らなかった場合は、値はそのまま保持されます。

● **RN01656:**

「メッセージ送信中間イベント(メール)」にて、メールの送信先の数に上限値(100 件)を設定しました。

- [宛先]、[Cc]、[Bcc]に指定されている送信先を合わせての上限値となります。
- 文字型データ項目で指定している場合は、その値で指定されている個々のメールアドレスの数もカウントします。

 メールを送信先が 100 件を超えないよう、適宜変更してください。

● **RN01657:**

「メッセージ送信中間イベント(HTTP)」にて、[アクセス URL]、[カスタムヘッダ]および[Basic 認証]に対する制限値を設定しました。

- [アクセス URL]: 実行時に 10,000 文字が上限値となります。
- [カスタムヘッダ]: HTTP ヘッダに変換された形式で 1,000 文字が上限値となり、最大 10 個のカスタムヘッダの指定ができます。
- [Basic 認証]: [ユーザ名]および[パスワード]を合わせて 500 文字が上限値となります。



各設定が上限値を超えないよう、適宜変更してください。

● **RN01672:**

プロセスモデラーにて、選択型データ項目(ラジオボタンまたはチェックボックス)の選択肢の[配置方向]および[列/行数]の設定方法を変更しました。

- [横]方向配置の[列数]指定のみの設定となりました。

【DataSpider BPM 2.4】

- ◇ [配置方向]: [横]または[縦]
- ◇ [列/行数]: <指定列/指定行数>

【DataSpider BPM 2.5】

- ◇ [列数]: <指定列数>



旧バージョンにおいて、[縦]方向配置の[行数]指定で設定されているデータ項目が存在する場合は、バージョンアップ時に[横]方向配置の[列数]が[1]の配置に変更されます。バージョンアップ後に配置状態を確認し、適宜[列数]の設定を変更してください。

● **RN01675:**

プロセスモデラーにて、テーブル型データ項目の入力値に対するバリデーションを追加しました。

- 内部データ形式の XML 文字列の長さで判定し、100 万文字を超える場合はエラーとなります。

API

● RN01719:

ワークフローAPIにて、レスポンスデータ[ProcessDataEntry]にデータ項目名[name]を追加しました。

- 対象の API は以下の通りです。
 - ◇ 新規プロセスを開始する: /API/PE/ProcessInstance/start
 - ◇ マイタスクの一覧を取得する: /API/PE/Workitem/listAllocated
 - ◇ 引き受け待ち(オファータスク)の一覧を取得する: /API/PE/Workitem/listOffered
 - ◇ 引き受け待ち(オファータスク)を引き受ける: /API/PE/Workitem/batchAccept
 - ◇ タスク処理履歴を検索する: /API/OR/Workitem/list
 - ◇ すべてのプロセス履歴を検索する: /API/OR/ProcessInstance/list
 - ◇ プロセスの詳細情報を取得する: /API/OR/ProcessInstance/view
 - ◇ タスクを強制割当する: /API/PIM/Workitem/reallocate



外部システムなどから API を使用し、レスポンスデータを取得している場合は、処理を適宜変更してください。

● RN01722:

キャッシュされている選択肢情報を取得する: /API/Admin/ItemCache/list APIにて、レスポンスに選択肢の詳細情報を含めないよう変更しました。

- レスポンスデータの型が[items]から[urls]に変更され、参照元の URL のみ取得するようになります。

【DataSpider BPM 2.4】

```
{
  "items":
  {
    "http: ¥/¥/select.testserver.com¥/simple¥/yesno.xml":
    {
      "true":
      {
        "display": "Yes", "value": "true",
      },
      "false":
      {
        "display": "No", "value": "false"
      }
    }
  }
}
```

【DataSpider BPM 2.5】

```
{
  "urls":
  [
    "http: ¥/¥/select.testserver.com¥/simple¥/yesno.xml"
  ]
}
```

● **RN01723:**

以下の API を DataSpider BPM 2.5 より廃止しました。

- プロセスを削除する: /API/PIM/ProcessInstance/delete
 - ◇ /API/OR/ProcessInstance/delete を使用してください。

 適宜、使用している API を変更してください。

● **RN01724:**

プロセス検索およびタスク検索の API にて、データ項目に関する検索条件のバリデーションを強化しました。

- 指定したデータ項目番号[data-definition-number]が存在しない場合は、400 エラーとなります。

● **RN01725:**

プロセスの[件名]が空の場合は、内部データを null に統一しました。

● **RN01726:**

プロセス検索およびタスク検索の API にて、ファイル型のデータ項目が取得する情報を変更しました。

- 対象の API は以下の通りです。
 - ◇ タスク処理履歴を検索する: /API/OR/Workitem/list
 - ◇ すべてのプロセス履歴を検索する: /API/OR/ProcessInstance/list
 - ◇ プロセスの詳細情報を取得する: /API/OR/ProcessInstance/view
- 変更内容は以下の通りです。


【DataSpider BPM 2.4】

- ◇ [contentType]: コンテンツタイプ
- ◇ [id]: ファイル ID
- ◇ [image]: 画像かどうか
- ◇ [lastModified]: 最終更新日時
- ◇ [length]: ファイルの長さ
- ◇ [name]: ファイル名
- ◇ [owner]: ファイルの所有者
- ◇ [path]: ファイルパス

- ◇ [processDataInstanceId]: ファイル型データ項目のインスタンス ID

【DataSpider BPM 2.5】


- ◇ [contentType]: コンテンツタイプ
- ◇ [id]: ファイル ID
- ◇ [image]: 画像かどうか
- ◇ [length]: ファイルの長さ(数値)
- ◇ [lengthText]: ファイルの長さ(文字列)
- ◇ [name]: ファイル名
- ◇ [dataInstanceId]: ファイル型データ項目のインスタンス ID

 外部システムなどから API を使用し、ファイル型のデータ項目を取得している場合は、処理を適宜変更してください。

● **RN01727:**

モニタリング API にて、リクエストパラメータを廃止しました。

- 対象の API は以下の通りです。
 - ◇ タスク処理履歴を検索する: /API/OR/Workitem/list
 - ◇ タスク処理履歴を検索する(CSV ファイル取得: UTF-8): /API/OR/Workitem/listCsv
 - ◇ タスク処理履歴を検索する(CSV ファイル取得: UTF-16): /API/OR/Workitem/listCsvUtf16
- 廃止したリクエストパラメータは以下の通りです。
 - ◇ [processModelInfoId]
 - ◇ [option]
 - ◇ [sort]
 - ◇ [dir]

 外部システムなどから API を使用し、廃止したリクエストパラメータを使用している場合は、[criteria]パラメータを使用するよう処理を適宜変更してください。

● **RN01728:**

タスクを実行する: /API/PE/Workitem/Form/save API にて、ファイル型および選択型(チェックボックス)のデータ項目に対する処理動作を以下のように変更しました。

- 編集許可設定が[編集可]の状態、API 実行時にパラメータを送らなかった場合、保持されている値が変わらないよう対応しました。

【DataSpider BPM 2.4】

- ◇ パラメータを送らなかった場合は、値がクリアされます。

【DataSpider BPM 2.5】

- ◇ パラメータを送らなかった場合は、値はそのまま保持されます。

● **RN01729:**

タスクを実行する: /API/PE/Workitem/Form/save API にて、日時型データ項目に対して空文字列を送信すると、値をクリアするよう対応しました。

● **RN01730:**

タスクを実行する: /API/PE/Workitem/Form/save API にて、日時型データ項目でエラーが発生した際に返す XML 内のパラメータ名を「data[X].datetime」に変更しました。

【DataSpider BPM 2.4】

- 「data[X].input」

【DataSpider BPM 2.5】

- 「data[X].datetime」







エラー処理でパラメータ名「data[X].input」を参照している場合は、「data[X].datetime」に変更してください。

● **RN01731:**

タスクを実行する: /API/PE/Workitem/Form/save API にて、ファイル型データ項目にファイル以外のデータを送信した場合、エラーにならずに無視されるよう対応しました。

4. 過去のバージョンアップで注意すべき仕様変更点

-  バージョンアップによる仕様変更により、動作が変わる事項を記載しています。
-  「RN99999」などの番号は、各バージョンのリリースノートに記載されているレポート No を表します。
-  過去バージョンでのバージョンアップ手順に関する詳細は、各バージョンで提供されているインストールガイドの「9. バージョンアップと再インストールについて」を参照してください。
-  その他の仕様変更や新機能についての詳細は、各バージョンのリリースノートを参照してください。


4.1. DataSpider BPM 2.0 から 2.1 へのバージョンアップ

ワークフロー

- **RN00623:**

タスク実行やイベントでのデータ受信時に、日付型/日時型プロセスデータ項目のフォーマットチェックを厳密に行うよう対応しました。

- データ送信側は、必ず以下のフォーマットでデータを送信する必要があります。
 - ◇ 日付型: YYYY-MM-DD
 - ◇ 日時型: YYYY-MM-DD hh:mm

 この仕様変更により、DataSpider Servista の DataSpider BPM アダプタや、外部システムとの API 経由での HTTP 通信連携などでは、これまで正常終了していた処理がエラーとなる場合があります。送信するデータをフォーマットに準拠するよう変更願います。また、DataSpider Servista の DataSpider BPM アダプタでは、「日付フォーマット」ロジックを使用して、送信するデータを変更せずに、フォーマット変更を行うことができます。

- **RN00637:**


プロセス検索画面にて、[HTTP 経由で取得した選択肢を設定] 以外の方法で選択肢が設定されている選択型データ項目の検索条件を変更しました。

【DataSpider BPM 2.0】

- 検索時に指定した[選択肢名]の持つ[選択肢の値]が、[選択肢名]または[選択肢の値]に保持するデータを検索対象とします。

【DataSpider BPM 2.1】


- 検索時に指定した[選択肢名]の持つ[選択肢の値]を保持するデータを検索対象とします。

 選択型プロセスデータ項目を指定して検索条件を保存している場合は、期待する検索結果が得られるかどうかを確認してください。

● **RN00703:**

文字型(単一行および複数行)のプロセスデータにて、タスク実行画面終了時に値の前後に入力された半角スペースまたは改行を取り除かないよう変更しました。

- この仕様変更により、メッセージ送信中間イベント(HTTP)およびメッセージ送信中間イベント(DataSpider Servista)へ文字型プロセスデータ項目の値を送信する場合、値の前後の半角スペースまたは改行はそのまま送信されます。


 外部システムや DataSpider Servista などの受信側で、文字型プロセスデータ項目に対する値の判定を行っている場合は、値の前後の半角スペースまたは改行が含まれた状態でも正常に動作することを確認してください。

プロセスモデル設定


● **RN00677:**

プロセスモデルにて配置および設定できるスイムレーン、アイテムおよびプロセスデータ項目の数を制限するよう変更しました。

- スイムレーン数: 50
- アイテム数: 150
- プロセスデータ項目数: 300


 アイテムとは、プロセス図に配置したタスク、イベントおよびゲートウェイを指します。

 プロセスデータ項目数の制限値は、[件名] も含みます。

 DataSpider BPM 2.1 以前に作成したプロセスモデルにて、それぞれの制限値を超えている場合は、そのまま使用することができます。ただし、そのプロセスモデルに対し、スイムレーン、アイテムまたはプロセスデータ項目を新規に追加することはできません。

● **RN00685:**

プロセスモデラーの分岐条件設定画面にて、数値型プロセスデータ項目の条件式で「等しくない」が指定され、データへの入力がない(空または null)場合、条件式を満たす「true」と評価するよう仕様を変更しました。

 DataSpider BPM 2.0 以前では、「false」と評価していました。「等しくない」が設定されている DataSpider BPM 2.0 以前のバージョンで作成したプロセスモデルをバージョンアップまたは DataSpider BPM 2.1 でインポートした場合、「等しくない」の条件式に加えて「値が入力されている」の条件式が自動で付加されます。

4.2. DataSpider BPM 2.1 から 2.2 へのバージョンアップ

全般

- **RN00907:**

カレントのログファイル名を変更しました。

- カレントのログファイル名にも日付がつけました。
 - ◇ <ログファイル>.log.YYYY-MM-DD
- 対象のログファイルは以下の通りです。
 - ◇ qbpms.log → qbpms.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ timer.log → timer.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ mail.log → mail.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ oauth.log → oauth.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ saml.log → saml.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ error.log → error.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ quartz.log → quartz.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ stats.log → stats.log.YYYY-MM-DD



上記のログファイルを監視している場合などは、参照するファイル名を変更する必要があります。

- **KN01150, KN01151:**

ExtJS のバージョンアップにより、[高度なレイアウト編集] を使用している場合に記述した JavaScript がオンラインマニュアルの記述例通りに動作しないため、記述例を参考にしている場合は以下のように JavaScript を修正する必要があります。

- イベントハンドラの読み込みタイミングについて
 - 【変更前】
 - ◇ 遅延処理を行わない
 - 【変更後】
 - ◇ setTimeout メソッドによる遅延処理を行う
- 選択型プロセスデータ項目の値が変更された際のイベントハンドリングについて
 - 【変更前】
 - ◇ change イベントでハンドリングを行う

【変更後】

- ✧ click イベントでハンドリングを行う
- 選択型プロセスデータ項目(ラジオボタン)の値の取得について

【変更前】

- ✧ jQuery の val メソッドを実行して値を取得する

【変更後】

- ✧ id を取得し、inputValue を参照して値を取得する



JavaScript 記述例の詳細は、[DSBPM22_151217_03]パッチを適用後、オンラインマニュアルの「JavaScript を使用したプロセスデータ項目の操作」ページを参照してください。



上記に該当しない場合においても、バージョンアップの際には JavaScript の動作確認は行ってください。

システム設定

● **RN00893:**

Google Apps 連携にて、関連する以下の機能が使用不可となりました。

【使用不可となる機能】

- Google ドキュメントにファイルをアップロード
- Google カレンダーに締め切り登録
- Google スプレッドシートにプロセス検索結果をエクスポート

4.3. DataSpider BPM 2.2 から 2.3 へのバージョンアップ

全般

- **RN01129:**

出力されるログを変更しました。

➤ 以下のログファイルは、出力しないよう変更しました。

- ◇ mail.log.YYYY-MM-DD
- ◇ ognl.log.YYYY-MM-DD
- ◇ stats.log.YYYY-MM-DD



上記のログファイルを監視している場合などは、監視方法を変更する必要があります。

プロセスモデル設定

- **RN01132:**

「メッセージ送信中間イベント (DataSpider Servista)」にて、選択型プロセスデータがタスク処理画面で未選択の場合、ほかの型が未入力の場合と同様にデータを送信しないよう変更しました。

【DataSpider BPM 2.2】

➤ すべての item 要素の selected 属性が、[false]のデータを送信します。

【DataSpider BPM 2.3】

➤ 値は[null]となり、データが送信されません。



受信側の DataSpider Servista のスクリプトが、未選択でもデータを期待しているスクリプトになっている場合は、スクリプトを変更する必要があります。


システム設定

- **RN01110:**

OpenID を使用したシングルサインオンにて、関連する以下の機能が使用不可となりました。

【使用不可となる機能】


- Google OpenID によるシングルサインオン
- Google ガジェット
- Google Apps アカウントとの同期(ユーザ/組織/グループ)

 [Google Apps 連携]メニューは廃止されました。

API

- **RN01121:**

モニタリング API にて、[HTTP 経由で取得した選択肢を指定]した選択型プロセスデータ項目を条件指定した際、[選択肢 ID]のみを検索対象とし、[表示名]は検索対象としないよう変更しました。

 モニタリング API を使用し、[表示名]を検索対象としている場合は、条件指定を変更してください。

4.4. DataSpider BPM 2.3 から 2.4 へのバージョンアップ

全般

- **RN01457:**


ログの出力フォーマットを変更しました。

【DataSpider BPM 2.3】

- <日付(YYYY-MM-DD)> <時刻(HH:MM:SS,mmm)> <ログレベル> <<ユーザ ID>> <ロガー名>
- <メッセージ>

【DataSpider BPM 2.4】


- <日付(YYYY-MM-DD)> <時刻(HH:MM:SS,mmm)> <ログレベル> <[スレッド名]> <<ユーザ ID>> <ロガー名> - <メッセージ>
- 出力フォーマットが変更されたログは以下の通りです。
 - ◇ error.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ oauth.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ qbpms.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ quartz.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ saml.log.YYYY-MM-DD
 - ◇ access.log.YYYY-MM-DD

 上記のログファイルを監視している場合などは、監視方法を変更する必要があります。

ワークフロー

- **RN01290:**

タスク処理画面にて、日付型プロセスデータ項目の[今日]ボタンを[Now]ボタンの表示に変更し、カレンダー下部から日付型プロセスデータ項目の右側に配置を変更しました。


 [Now]ボタンの配置変更にともない、高度なレイアウト機能を使用しているタスク処理画面の日付型プロセスデータ項目では、レイアウト上で[Now]ボタンが表示されない場合があります。定義しているレイアウトによって異なりますが、DataSpider BPM 2.4 へのバージョンアップ時には、高度なレイアウト機能を使用しているタスク処理画面の動作確認を行い、レイアウトを適宜修正してください。

プロセスモデル設定

● RN01349:

「ヒューマンタスク」のプロパティ設定ダイアログにて、[締め切り到達時の処理]の[タスクを異常終了させる (トークンは進みません)]の設定を今後のバージョンでは廃止予定とします。


- DataSpider BPM 2.4 から、新規にこの設定を選択することはできなくなります。
- バージョンアップにより、すでに設定済みの場合は以下の動作となります。
 - ◇ プロセスモデルに警告メッセージが表示されます。
 - ◇ 稼働中のプロセスモデルはそのまま使用可能ですが、設定を変更しない限り、新バージョンを[リリース]することはできません。

 適宜、[タスクを異常終了させる (トークンはタイマー境界イベントに移動)]または[何もしない]に設定を変更してください。

● RN01351:

「ヒューマンタスク」のプロパティ設定ダイアログにて、[アラーム]設定を廃止し、新しい通知設定を追加しました。

- [締め切り/通知] タブの[通知]で設定します。
- そのタスクの処理担当者(候補者)に対して、処理担当者自身の通知設定に関係なく通知メールを送信します。
- 組織に対する通知設定は廃止され、組織に対しての通知メールを送信しません。

 新しい通知先および通知設定への切り替えにともない、DataSpider BPM 2.4 へのバージョンアップ時には、[アラーム]で設定した値は引き継がれません。新しい通知設定にて、適宜設定してください。

API

● RN01442:

セキュリティ強化のため、登録および更新系 API での HTTP GET メソッドの使用を禁止しました。

- HTTP GET メソッドが使用できない API は、以下の通りです。
 - ◇ ユーザを追加する: /API/UGA/Quser/add
 - ◇ ユーザ情報を更新する: /API/UGA/Quser/update
 - ◇ ユーザを削除する: /API/UGA/Quser/delete
 - ◇ 組織を追加する: /API/UGA/Qgroup/add
 - ◇ 組織情報を更新する: /API/UGA/Qgroup/update
 - ◇ 組織を削除する: /API/UGA/Qgroup/delete
 - ◇ 組織にメンバを追加する: /API/UGA/Membership/add

- ◇ 組織のリーダ設定を更新する: /API/UGA/Membership/update
- ◇ 組織からメンバを外す: /API/UGA/Membership/delete
- ◇ タスクを強制割当する: /API/PIM/Workitem/reallocate
- ◇ プロセスを強制終了する: /API/OR/ProcessInstance/stop
- ◇ プロセスを削除する: /API/OR/ProcessInstance/delete



上記の API を外部システムなどから HTTP GET メソッドで呼び出している場合は、HTTP POST メソッドで呼び出すよう変更してください。

● **RN01443:**

以下の API を DataSpider BPM 2.4 より廃止しました。

- タスク処理履歴を検索する: /API/PIM/Workitem/list
 - ◇ /API/OR/Workitem/list を使用してください。
- すべてのプロセス履歴を検索する: /API/PIM/ProcessInstance/list
 - ◇ /API/OR/ProcessInstance/list を使用してください。
- 履歴内プロセスの詳細情報を取得する: /API/PIM/ProcessInstance/view
 - ◇ /API/OR/ProcessInstance/view を使用してください。
- タスクリスト内プロセスの詳細を取得する: /API/PE/ProcessInstance/view
 - ◇ /API/OR/ProcessInstance/view を使用してください。
- ユーザー一覧を取得する: /API/UGA/Quser/list
 - ◇ /API/User/Quser/list を使用してください。
- ユーザをメールアドレスで検索する: /API/UGA/Quser/findByEmail
 - ◇ /API/User/Quser/find を使用してください。
- 組織一覧を取得する: /API/UGA/Qgroup/list
 - ◇ /API/User/Qgroup/list を使用してください。
- 組織を名前で検索する: /API/UGA/Qgroup/findByName
 - ◇ /API/User/Qgroup/find を使用してください。



適宜、使用している API を変更してください。

● **RN01451:**

ユーザー一覧および組織一覧を取得する API にて、送信パラメータに対するエラーコードを追加しました。

- [start] パラメータエラー: 「InvalidStart (10012)」

- [limit] パラメータエラー: 「InvalidLimit (10013)」



外部システムなどから API を使用し、エラーコードを取得している場合は、処理を適宜変更してください。

- **RN01452:**

API の Basic 認証にて、[ログインパスワード]と同じ[API パスワード]を使用できないよう対応しました。

- [ログインパスワード]と[API パスワード]が同じ値の場合は、[API パスワード]が未登録の状態となるため、[API パスワード]をあらためて登録する必要があります。[新しいパスワードを自動生成]を行い、適宜登録してください。

また、API を使用している外部システムなどでは、Basic 認証時に指定しているパスワードも変更する必要がありますので、バージョンアップ後には[API パスワード]を確認し、外部システム側も変更してください。



[アカウント設定] - [パスワード]メニューの[API パスワード]タブにて、「API パスワードがまだ生成されていません。」メッセージが表示されるユーザが対象となります。



DataSpider Servista の BPM アダプタでも、この[API パスワード]を使用しています。グローバルリソースの[パスワード]の値も合わせて変更してください。

- **RN01459:**

ワークフローAPIにて、テーブル型プロセスデータ項目に保持しているカラム名およびデータ値の出力結果を変更しました。

- 関連ライブラリのバージョンアップにより、カラム名およびデータ値の HTML エスケープ(サニタイズ)の範囲が変更されました。
- 影響を受ける API は以下の通りです。
 - ◇ タスク処理履歴を検索する: /API/OR/Workitem/list
 - ◇ すべてのプロセス履歴を検索する: /API/OR/ProcessInstance/list
 - ◇ プロセスの詳細情報を取得する: /API/OR/ProcessInstance/view
- レスポンスデータ WorkitemEntry および ProcessInstanceEntry の data 属性(ProcessDataEntry)に保持されているテーブル型プロセスデータ項目の値(value)内のカラム名およびデータ値が対象となります。

【DataSpider BPM 2.3】

- '<>', ¥00A0 - ¥00FF、または¥0192 などの値は、文字実体参照に置換されます。
- 値が ASCII 範囲外の文字の場合は、数値文字参照(16 進数による指定)で置換された値が結果として出力されます。

出力例) テーブル型プロセスデータ項目のカラム名が"項目 1"の場合


```
"data": {
  "11": {
    "dataType": "LIST",
    "id": 3888097,
    "processDataDefinitionNumber": 11,
    "subType": null,
    "value": "<table class=¥\"system¥\"><thead><tr><th>¥#38917;¥#30446;1</th>
    ...(以下省略)...
```

【DataSpider BPM 2.4】

- '<>', ¥00A0 - ¥00FF、または¥0192 などの値は、文字実体参照に置換されます。
- 値が ASCII 範囲外の文字の場合は、そのままの値が結果として出力されます。

出力例) テーブル型プロセスデータ項目のカラム名が"項目 1"の場合

```
"data": {
  "11": {
    "dataType": "LIST",
    "id": 3888097,
    "processDataDefinitionNumber": 11,
    "subType": null,
    "value": "<table class=¥\"system¥\"><thead><tr><th>項目 1</th>
    ...(以下省略)...
```

 外部システムにて、上記の該当する API を使用し、レスポンスデータからテーブル型プロセスデータ項目の値を使用している場合は、適宜処理を修正してください。

DataSpider BPM 2.5 アップグレードガイド (第一版)

最終更新日 2017年11月1日

株式会社アプレッソ

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-8-1 赤坂インターシティ AIR 19F

電話：03-4321-1111
